

Kyoto Seika University

京都精華大学

2006



刻み込まれた 「自由自治」の精神

— 京都精華大学の教育の原点はここに存在する —

京都精華大学の教育を支える理念は、初代学長・岡本清一によって提示された。岡本清一は開学にあたって、まったく新しい大学教育の創造を構想し、「自由自治」の精神に貫かれた、あるべき大学の姿を熱く語りつづけた。京都精華大学はその理想のもとに生まれ、理想を追求しつづける大学だ。岡本清一の言葉をたどることで、京都精華大学の教育の原点を知ることができる。そして、岡本清一の言葉は、そのときどきに大学に集った人びとによって、生きた教育活動として実践されることで、いまも継承されている。

岡本清一は開学初年度にこう記している。

「『自由自治』は、近代精神の真髄を言いあらわした言葉である。自由自治の精神は庶民の精神である。庶民が求め、庶民の力によって形成される精神である。われわれの大学は庶民の大学であろうとする。(中略)いつか、みんなの協力によって、この四文字が石に刻まれて校庭に立てられる日が来るであろう」(「1968年「履修要項」より)

2005年春、卒業生と京都精華大学に関わりある人たちの寄付によって、「自由自治」の文字が刻まれた石碑がうち立てられた。

岡本清一の願いが時を越えて実現したことは、「自由自治」が、既に人びとの精神に刻み込まれていたことを証している。

いまもこの大学にいきづく岡本清一が語った言葉たち

大学は学問と教育と深い友情とを発見する場所である。学生
の精神を深いつかせるような官僚主義的な環境の大学では、友
情を培うことはできない。学生を群集の中の一人としてしか扱
うことのできない巨大大学においては、学生の孤独からの脱出は
きわめて困難である。そして学問的にまた人間的に魅力のない
教授による教育は、無意味である。われわれの大学は新しい画
布のように、一切の因襲的な過去から断絶している。そして教師

も学生もすべて、まず人間として尊重され、自由と自治の精神の
波うつ新しい大学を、これから創造していこうとしているのである。
この大学の理念のもとに、今日の「失われた大学教育」を京
都の地において回復することに、われわれは使命を感じている。
この新しい大学創造の仕事を分担しようとする学生諸君！ 諸
君の参加をわれわれは待っている。

(「1968年 大学案内」より)

高く自由自治精神の旗をかかげるわれわれの大学においては、
いわゆる当局と大学人の間に、また大学の構成要素としての教
員・職員、学生の三者の間に、いかなる秘密もあってはならず、そ
して学生もまた大学全体の運営から遮断されることなく、自治能
力の開発をはかりつつ、その分限に応じて、これに関与すること
が望ましいと考えられている。大学における全ての機会は、環境
と研究のためにこそ生かされるべきものである。かくしてこの大
学は、教員のものであり、また職員のものであると同じように、学

生のもとなる。そこにおいては学生の大学に対する疎外感
は、生まれず、すなおな母校愛が成立するにちがいない。

いま大学を志している諸君のなかに、もし、このような大学の
在り方に共感する人があるならば、この新しい時代のための大
学づくりの協働者として、いっしょに腕をくんでいきたい。そしてこ
の白い画布に大学の理想を描いていこうではないか。

(「1969年 大学案内」より)

2003年春、建学理念の継承と再生を図るため、京都精華大学はあらためてその使命と基本理念を明らかにした。

● 京都精華大学の使命

1. 京都精華大学は、人間を尊重し人間を大切にすることを教育の基本とし、学問・芸術によって、人類社会に尽くそうとする自立した人間の形成を目的とする。
2. 京都精華大学は、社会に責任を負う自立した人間の形成という目的のために、恒に現実の社会的視点を維持し、広く社会に貢献する活動を行う。
3. 京都精華大学は、教員、職員、学生によって一個の有機的社会を構成し、この大学社会における人間的な交流を基礎にして教育を行う。

● 京都精華大学の基本理念

1. 京都精華大学は、広く国内外に開かれた教育を行う。人間が国家、宗教、民族の対立を乗り越えて共に生きるためには、その価値観の違いを超えて人間的な信頼関係を築き出さなければならない。国家、宗教、民族を超えた人間的な交流の体験が必須である。
2. その教育において、特定の宗教・思想による教化を行わない。しかし、歴史を通じて人類が求めてきた普遍的な価値と、人間に対する誠実と愛の精神は、これを尊重する。
3. その教育は、教生を目指し、なお自立する人間の形成を目的とするために、現実の人間の問題を扱う学問・芸術の探求に基づき行わなければならない。その知的資源の創造的な養成と運用は、広く国内外に貢献することを目指すなければならない。
4. そのように現実社会に対する建設的批判と貢献を目指す。京都精華大学の教育と研究の活動は、また恒に現実と対峙し社会的視点を維持する大学の経営によって保障されなければならない。
5. 京都精華大学は、教員、職員、学生に開かれた大学社会を組織し、この社会を人間的平等主義に基づき運営する。各構成員が自覚的に選択した価値観は、対等にこれを尊重し、特定の価値観の絶対化は、人間の自由を抑圧し個人の自立を妨げるものとして、これを拒否する。
6. この大学社会は、構成員の自己啓発と相互の建設的批判によって日々刷新され、新たな教育と研究の土壌を形成する。品位のない態度と言葉は、この大学社会から除かれなければならない。構成員間の身分差別は、本学の理念とは無縁である。
7. すべての構成員は、この大学社会の規範に従うことが求められるとともに、新しい大学の創造に参加する権利を有する。



Contents

刻み込まれた「自由自治」の精神	01
精華からはじまる物語	03
学部紹介	11
人文学部	13
芸術学部	15
デザイン学部	17
マンガ学部	19
進路・就職	21
精華から未来へのサポート	22
就職活動に関する講座・取得できる資格	23
卒業後の進路	24
先輩たちの未来	25
学生生活	27
学生生活サポート	28
下宿案内	29
アルバイト	31
クラブ・同好会	33
学園祭	34
精華の卒業生たちが街を演出する	35
開かれた大学	37
講演会・展覧会	38
学外に発信する研究機関	41
地域との連携	43
国際交流	45
環境への取り組み	47
精華の施設と環境	49
教育理念とあゆみ	55
アクセス	58

※カリキュラムは現在実施予定のもので、変更になる場合があります。
※インタビュー等の在学生・卒業生の学年・プロフィールは、すべて取材時のものです。

学部紹介

京都精華大学では、2006年4月にデザイン学部、マンガ学部の開設を予定している。既存の人文学部、芸術学部をあわせ、4学部から構成される大学となる。学びの領域は各々異なっているけれども、いずれの学部も、人間を探究し、新しい文化と社会の創造をめざすことを共通の基盤としている。

京都精華大学

人文学部

社会メディア学科
環境社会学科
文化表現学科

P.13へ >>>

芸術学部

造形学科
●洋画
●日本画
●立体造形
素材表現学科※
●陶芸
●テキスタイル
メディア造形学科※
●版画
●映像

P.15へ >>>

デザイン学部

ビジュアルデザイン学科
●グラフィックデザイン
●イラストレーション
●デジタルクリエイション
プロダクトデザイン学科
●プロダクトコミュニケーションデザイン
●インテリアプロダクトデザイン
建築学科
●建築

P.17へ >>>

マンガ学部

マンガ学科
●カートゥーン
●ストーリーマンガ
マンガプロデュース学科
●マンガプロデュース
アニメーション学科
●アニメーション

P.19へ >>>

※デザイン学部、マンガ学部、及び芸術学部素材表現学科、メディア造形学科は2006年4月に設置を構想中。

大学院 人文学研究科

人文学研究科は、人文学部の3学科「文化表現」「社会メディア」「環境社会」を基礎に「文化」「社会」「環境」の3領域から構成。それぞれの関心領域を機軸にしつつ、幅広く関連領域の研究を推進することができる。

大学院 芸術研究科

芸術研究科では、学部で追求してきた自己表現をさらに深く探究する。自分のスタイルを確立することを主眼におき、「次世代の文化の担い手」を育成する。

環境を考える大学

2005年2月、ついに「京都議定書」が発効された。

地球環境保全への取り組みがいよいよ本格化する中、京都精華大学は時代に先がけて「環境」を考え続けてきた。



●2000年に全学を対象としたISO14001認証を取得

学生も教職員も
誰もが環境活動に参加する大学

環境問題はもはや特別なことではない。持続可能な社会をめざすことは、一人ひとりの自覚なしには不可能だ。京都精華大学は、大学全体で環境問題に取り組み続ける大学である。

2000年3月に環境への積極的な取り組みを認証する国際規格「ISO14001」を取得。環境マネジメントシステム(EMS)組織の構成員は全教職員と全学生で、全ての学生を対象にした認証取得は全国で初めての試みだった。キャンパス全体に導入したEMSは、学内の環境保全活動の改善と継続に、誰もが主体的に取り組むことができる仕組みの基盤となっている。EMSの確立と実施のために学内の全員が協力し、環境負荷の低減と環境汚染の防止につとめている。



京都精華大学の環境マネジメントシステム

ISO14001は、環境マネジメントシステム(EMS)をどのように構築すればいいかを定めた国際規格。「環境に適切なルール体系を持っている」という国際的な認証だ。京都精華大学のEMS組織は、学長、環境管理責任者、26部門から成る環境委員会、活動拠点の環境事務局で構成される。学長の定めた「環境方針」のもと、環境委員が各部門それぞれの特性に合った目標を一年ごとに決め、EMSの維持・管理に取り組んでいる。

京都精華大学環境方針

基本理念

京都精華大学は、人類文明の存続にとって地球環境問題への取組が必須であると認識し、地球環境問題への取組に、大学組織として貢献することを目指す。そのため、大学に環境マネジメントシステムを確立し実施する。

大学の教育活動においては、地球環境問題の重要性を理解し環境保全に向かうための、さまざまな実践を取り入れる。とりわけ環境マネジメントシステムの確立と実施が環境問題への実践的な意識形成に重要であり、教育課程においても、他の学内外での諸活動においても、環境マネジメントシステムへの学生の積極的な関与を教育目標として設定する。また、地域社会との連携・協力はもとより他大学とも連携・協力を図り、環境問題への取組に、教育活動を通じて積極的に貢献する。

大学の管理運営にあたっては、環境マネジメントシステムの確立と実施により、学内の役員・教職員・学生および常駐する委託会社の職員が協力し、環境負荷の低減と環境汚染の防止に努める。

基本方針

1. 環境マネジメントシステムを確立し、大学の教育活動を通じ学生の地球環境問題への関心意識の醸成に努める。
2. 地域社会はもとより他大学等とも連携し、教育課程に設定する諸プログラムによって、環境への社会的取組に貢献する。
3. 学内外における大学の活動・制作物およびサービスにおいて、環境に影響を与える側面を認識し、その影響を評価するとともに、汚染の予防に努める。
4. とりわけ省資源・省エネルギー、廃棄物の削減・再資源化に積極的に取り組み、環境負荷の低減に努める。
5. この環境方針を達成するため、目的・目標を設定し、学内の役員・教職員・学生および常駐する委託会社の職員が一致協力し、その達成に努める。
6. 学内のすべての活動において環境関連の法律・規則・協定、および大学が認めるその他の要求事項は、これを順守する。
7. 内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムを見直し、その継続的改善に努める。

2005年2月1日 京都精華大学 学長 中尾ハジメ

●さまざまな取り組み

芸術学部

環境に配慮した制作技法や素材を研究・開発している。また、環境保全に焦点をあてた作品制作や展覧会の開催、環境関連イベントへのヴィジュアル制作などでも協力している。

人文学部

環境社会学科の専門科目だけでなく、社会メディア学科の「音景観デザイン」(植樹し、葉擦れ音で騒音緩和するアイデアの提案)や、環境をテーマにしたレポート出題などが行なわれている。

省エネとリサイクル

学内全体をあげて、徹底した資源回収とごみの減量に取り組む。冷暖房の適正温度設定や電気の「消し忘れチェック」も実施。学生団体による学内のごみの組成調査やごみ削減活動も。

学外研究機関の開設

学生が社会に貢献するための活動基盤として「環境ソリューション研究機構」を開設。環境保護のための研究と情報発信の拠点をめざす。企業向けの環境対策指導や、市民講座も実施。

外部機関でのEMS構築支援

学外組織でのEMS構築支援実績は、2002年度の城陽市役所、2003年度の京都府立八幡高校のISO14001認証取得実現をはじめ、2004年度は10組織へ22名の学生を派遣。EMS構築・改善を支援した。

産官学連携

2004年度は「舞鶴市地球温暖化対策推進実行計画」の構築を受託。同市では竹林の有効利用法の研究と具体案を提案する「竹プロジェクト」の実施や、小学校の旧校舎再生などにも協力した。

●EMSを活用した教育プログラムが「特色ある大学教育支援プログラム」に採択

EMSを取り入れた教育取り組みが大学教育の模範例に

精華は、授業や学内外での活動でも、ISO14001認証取得キャンパスを活かしたさまざまな実践を続けている。代表的な例として2004年には人文学部環境社会学科・環境経営コースのEMSを利用した教育プロジェクトが、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された。ここでは学内EMSを活用した教育方法の工夫、その成果としての社会貢献、学生の成長などが高い評価を受け、京都精華大学の取り組みが全国レベルでも非常に優れていることが証明された。

EMSを理論と体験の両面から学べる日本で唯一のプログラム

このプログラムで学生たちは、EMS構築を机上の講義で学ぶだけでなく、学内外でEMSを構築する体験を通して学ぶ。ISO14001認証を得たキャンパスは、学生が内部監査員となつて行なう「内部環境監査」の舞台に。また、EMS構築のコンサルティング技術を身につけた学生は、コンサルタントとして企業や団体など学外組織で構築支援を実施。授業を通して実際の支援実績まであげている。

特色ある大学教育支援プログラム

「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」とは、文部科学省が2003年度に始めた、特色ある優れた教育事例を選定するプログラム。京都精華大学は「教育方法の工夫改善」に関するテーマに「自立した学習者による社会貢献の実践教育～環境マネジメントシステムの構築を通じて～」を申請し、応募件数534件中、採択わずか58件という難関を突破し、採択された。



●地球環境大賞「優秀環境大学賞」受賞

もっとも環境保全に熱心な大学として「優秀環境大学賞」を受賞

京都精華大学は、2005年「第14回地球環境大賞(主催:フジサンケイグループ)」の優秀環境大学賞を受賞した。同賞は地球環境保全に対する意識の向上を目的とし、平成4年に創設。環境保全活動に熱心な企業、自治体、大学、市民グループなどを表彰してきた。ここでも他に例を見ない京都精華大学の環境への取り組みが高く評価されている。



写真提供: フジサンケイビジネスアィ